**平井　信作 （ひらい・しんさく）**

**１、プロフィール**

小説家。県内の新聞、同人誌を舞台に、常に地方人の生活の中に都会と共通の鉱脈を発掘した。「生柿吾三郎」ものの広い人気は、ユーモア一辺倒でないところにある。

＜生没＞

1913（大正２）年４月６日 ～ 1989（平成元）年６月５日

＜代表作＞

小説『生柿吾三郎の来歴』『生柿吾三郎の税金闘争』『太行山脈』

＜青森との関わり＞

南津軽郡浪岡村（現青森市浪岡）生まれ。

**２、作家解説**

大正15年浪岡小学校を卒業、弘前中学校に入学。昭和６年卒業後ただちに上京、築地小劇場の三期生となる。父によって村に帰されるが、戯曲「吹雪－かくして農民は起てり」を持って再び上京、劇場上演をとげる。

戦時中兵役に従い、21年帰郷、「月刊東奥」８月号に発表した「津軽衆」が処女作。22年「月刊東奥」に「猫眼町」以下４篇、25年の同誌に２篇の小説を発表。

戦後、東奥日報の連載小説に登場の郷土作家、平田小六、北畠八穂、淡谷悠蔵にひき続き、26年12月から平井の「生柿吾三郎の来歴」が登場、二百回以上の連載となるほど好評であった。30年２月から青森県農業改良普及会の機関誌「青森農業」に「生柿吾三郎の来歴」が再登場し連載を続けた。37年、弘前文学会の当番で刊行の「東北作家号」に「べご」を書き、「弘前文学」７月号に「君に勧む一杯の酒」を発表。

41年「弘前文学」発表の意欲的な二作があり､42年今官一主宰の「現代人」に発表の「生柿吾三郎の税金闘争」が「文学界」に転載、直木賞候補作品となる。

42年、「夏後家」「軍鶏村」「丑のべご」の諸篇を収録した『生柿吾三郎の税金闘争』が文芸春秋社から刊行された。44年『生柿吾三郎の来歴』刊行。

45年以降「弘前文学」に「最初の不忠者」の他に「生柿吾三郎もの」が数篇あり、「北の街」に「津軽艶笑譚」の連載もあった。

単行本には､46年『太行山脈』（生柿吾三郎兵隊小説集）､47年『生柿吾三郎の選挙闘争』などがある。石坂洋次郎の評､「地方人の生活」にも少し深く掘り下げれば､都会人にも地方人にも共通の生活の鉱脈がある、とは至言というべきである。

**３、資料紹介**

〇『生柿吾三郎の来歴』

図書

1969（昭和44）年２月10日

190mm×135mm

昭和26年より「東奥日報」朝刊に連載。50回の予定が好評を博し200回以上になり、「生柿吾三郎」が平井の小説の代名詞ともなった記念すべき作品。津軽野に繰り広げられる吾三郎の生い立ちから青春時代までを、ユーモアとペーソスをおりまぜながら描く。